

1 山中 優のヒーロー

エメット・ブラウン博士 通称ドク
(Dr. Emmett "Doc" L. Brown)

ドクは 1985 年 1989 年 1990 年と三部作にわたって公開された SF 映画『Back to the Future』シリーズの主要キャラクターであり、主人公のマーティ・マクフライの親友の科学者・発明家である。

「Back to the Future」とはドクがタイムマシン（デロリアン）を発明した事をきっかけに様々な時代を舞台にトラブルに巻き込まれながらも次々に問題を解決していく SF 映画である。

ドクの特徴

- ・目的のために見境のない行動をとることがある。
(実際 part1 ではタイムマシンの燃料となるプルトニウムを入手するためにリビアの過激派を騙すという暴挙に出ている。)
- ・理屈っぽく、何事に関しても論理的に物事を考える性格。
- ・口癖は「Great Scott! (なんとことだ、なんてことだ)」
- ・西部劇をこよなく愛しており、part3 では見事な腕前を披露している。
- ・周囲の人物には「関わると危険」と変人扱いされている。
- ・車型のタイムマシン「デロリアン」を発明、所有している。



2 デロリアン

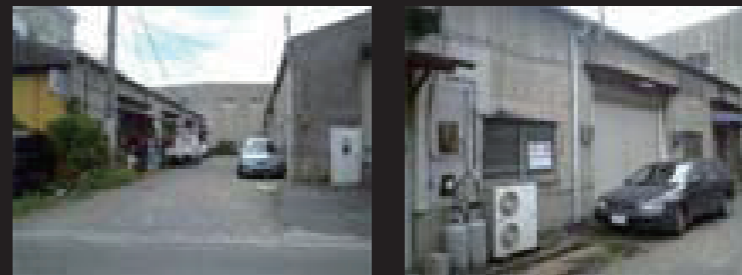
ドク自身の愛車であった「DMC-12」をタイムマシンに改造したものを、そのまま通称とし「デロリアン」と呼んでいる。ドクが発明した「次元転移装置」なるもので**未来と過去を行き来する**。さらに 2015 年に開発・一般化される「ホバー・コンバージョン」なるもので**空を飛び**、「ミスター・フュージョン」なるもので**生ゴミなどを燃料に変える**。(part2 の設定)

3 ストーリー

ドクは日本へ。
映画内で主人公マーティの憧れの車がトヨタの「ハイラックス」であったり、その他にも日産やホンダの車が登場するシーンがある。他にもギターやドラムが Ibanez 製や YAMAHA 製であったり、家電製品が日本ビクター製品やパナソニック製品などが使われている。

ドク自身が科学者であり発明者であることから日本への興味を強め、後に来日、日本での生活を決める。

4 物件探し



科学者である彼は東大阪菱江にある貸工場貸倉庫を選んだ。この場所は準工業地域に指定されており、周囲も工場や倉庫で溢れている。有名な中小企業が数多く存在する事で有名な東大阪市だが、世界に誇る最先端技術がこの地域にあるとは思えない街並が広がっている。この場所にドクが暮らし、昼間から実験の騒音や機械音が鳴り響いたとしても誰も不思議に思わないだろう。



5 リノベーションプラン

ドクのように特定の専門の分野がなくあらゆる分野が研究の範疇であるという科学者は少ない。彼にとってこの一室のみの空間というのはラボとしても、住居としても狭すぎるしバリエーションに欠けすぎている。

そこで考えたのが**デロリアン**がある。私たちが廊下を渡って部屋を行き来したり、階段やエレベーターを使って上下階を行き来するように、**デロリアンに乗って様々な時代の「この部屋」を利用する**というプランを考えた。

具体的には **20 年周期でこの倉庫を「書斎」→「LDK」→「大浴場」→「ラボ」→「趣味室」とリノベーション**し、計画し直してゆくというものである。(構造的な補強等を含む)そしてその5つの部屋をドクはまるで廊下や階段やエレベーターを使うくらい簡単にデロリアンに乗って行き来する。100 年間で変わらずずっと続けるものは**ダストシュート**のみである。中2階に設置したダストシュートにゴミを入れると駐車してあるデロリアンの「ミスターフュージョン」へ入るしくみとなっている。

